

R
E
J
補改修協会

協会の認知度向上を

22年度定期総会開く



佐藤匡良会長

JERRコンクリート補修協会（佐藤匡良会長）はこのほど、都内で2022年度定期総会を開いた。21年度事業報告・決算および22年度事業計画・収支予算などを審議し、承認した。

佐藤会長は「厳しい経済情勢のなかで官公物件の割合が多い業界の需要は堅調ではある。ただ今後、激しい受注競争も予想されており、発注単価の見直しが必要ならば、原材料価格の高騰が続くなかでの適正な利益確保は難しい」と話し、そのうえで「協会独自の保有技術であるジックボード工法やモルタル仕様の普及、現場のニーズに合わせた豊富な工法ラインア



定期総会のようす

ップの強みを生かすとともに協会の専門技術者認定資格者、コンクリート防食技士資格者を増やすことで品質管理の重要性や管理技術の向上、市場での認知度アップにつなげていきたい」と述べた。

22年度は、展示会出席による協会の知名度向上やホームページのリニューアル、カタログ改定など市場認知を広げる活動に注力する。

そのほか、コンクリート施設の長寿命化および対策にかかわる技術研

会・セミナー等を開催する。

啓発活動に注力

JERR管路部会が総会

JERRコンクリート補修協会管路部会（井上敬介部会長）はこのほど、都内で2022年度部会総会を開いた。21年度事業報告・決算および22年度事業計画・収支予算などを審議し、承認した。

総会であいさつに立った井上部会長は「支部設立に関しては、当部会活動の活性化を目的に21年

なく矩形構造まで含めて拡大した。また、材料使用の変更を行いジックボードの厚さを2ミに統一した。今後各支部で開催される研修会などで部会員に周知する予定だ。今後、自立更生工法『ジックボードJ工法』、モルタルライニング工法『ZモルタルKS500M工法』とあわせて自治体やコンサルタントへの研修会の開催を予定する。状況によってはオンライン形式や動画配信での対応も検討していきたい」と述べた。

また、積算の効率化について積算システムがホームページに搭載できる段階となったことを部会員に報告した。

22年度は、審査証明取得を活用した啓発活動や積算ソフトの運用ならびに有効活用などに取り組み。